

月刊 介護保険

介護に携わる人の
応援マガジン

特集

予防給付や利用者負担 の見直しがテーマに

「国民会議」報告書を受け介護保険部会が再開

2013

10

vol.212

● 現地ルポ—自治体編

将来を見据えて見守りネットワークを構築

栃木県芳賀郡芳賀町の取り組み

● 現地ルポ—事業者編

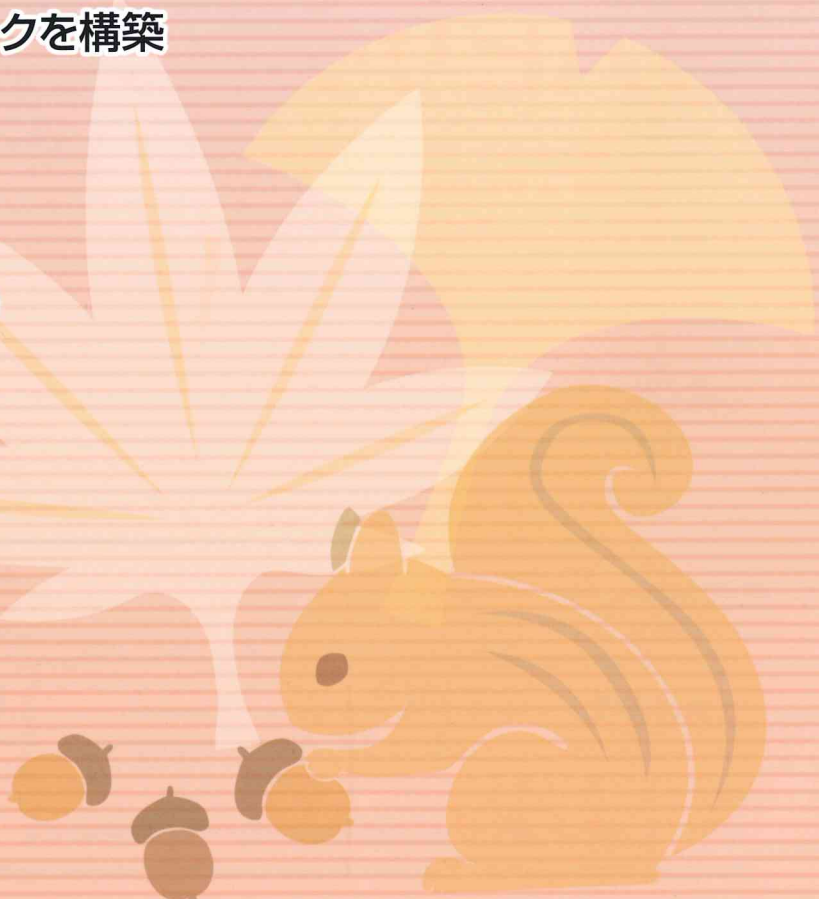
最期まで安心して暮らせる場所

「グループホームいずみ」(神奈川県横須賀市)

● レポート

成功報酬は機能するか

岡山県岡山市と東京都品川区の挑戦



街

へ出よう！

ト
ラ
ベ
ル
ヘ
ル
パ
ー
が
教
え
る
外
出
の

ゴッ

↓



NPO法人
日本トラベルヘルパー協会
理事長 篠塚 恭一

PROFILE しのづか・きょういち

株式会社SPIあ・える倶楽部代表取締役。
平成18年にNPO法人日本トラベルヘルパー
(外出支援専門員)協会を設立。

より身近になった船旅へ

「次はゆっくりと雰囲気を楽しみたいのですが、どんな旅がおすすめですか？」

初めての介護旅行が成功して外出に自信をつけたお客様から、そんな質問を受けることがあります。

脳卒中や心臓疾患など大病をしたあとの旅は、誰もが不安で周囲も緊張しているのが伝わってきます。だからこそ私たちは平静を装いますが、本人の不安は計り知れないものがあります。寝たきりの身体を起こす前に、まず気持ちを起こさなければ介護旅行は始まりません。“旅はリハビリ”といいますが、自らも忘れかけた欲求を呼び起こして、気持ちに火をつけるのがトラベルヘルパーの上級テクニックともいえるのです。

あきらめかけていた旅の仕事は段取りが8割。リピーターとなって気心の知れた関係ができた方からは、旅行以外にもさまざまな相談を受けることもあります。家族にも相談できない、医療や介護のプロでも解決できないことが誰しも一つや二つはあるものです。

常連のお客様からは、その日の気分とお天気だけで、どこかいいところに連れて行ってほしいという希望がある一方で、不自由な身体には、荷物を気にせず身軽に行けるのがいいから、何がよいか探してほしいというものもあります。

そこで今おすすめなのが船旅です。とくに今年はユニバーサルデザインが標準化している大型外国船がたくさん就航するようになったおかげで、旅費がぐっと下がりお得になっています。車いす対応の客室も多く、コースによっては、これまでの5分の1くらいの料金になって、しかも、短い日数で選べるものもたくさんできたので、体力に不安のある人にも身近な、優しい旅が増えました。

介護が必要な人の旅は、荷物が多いのがネック。でも、船旅はホテルがそのまま移動するようなものなので、持ち運びや荷造りの面倒がありません。いったん荷物を船会社に預けてしまえば、客室まで運んでくれるから身体一つで港に行けばよいだけ。下船時も宅配会社に頼めば手ぶらで帰ることができます。

団体行動が心配なら、個別に観光タクシーや福祉車両を手配しておけば、気兼ねなく寄港地の観光を楽しむこともできるし、屋形船や小さな観光船でも車いすの利用者を受け入れてくれるところが増えているので、あきらめずにチャレンジしてほしいと思います。

欧米では、地中海やカリブ海クルーズなど、人気のコースがたくさんあって、昔からクルーズ文化が浸透していました。なかでも大型船は、長期間の行程のものが多かったので、リタイア層でなければ参加しにくいものでした。そのため逆に、サービスも「高齢者標準」が当たり前で、歩くことに不安な人の利用も多いから、寄港地には数えきれないほどの車いすや電動シニアカーが用意されています。そうした光景が、日本の港でも珍しくなくなる日が近いと思っています。